

令和 6 年度第 2 回千代田区生物多様性推進会議

(開催要項)

1. 開催日時 令和 7 年 2 月 14 日 (金) 10 時 00 分～12 時 00 分

開催場所 千代田区役所 6 階 特別会議室 ※WEB会議と会場の併用

2. 出席委員 (10 名)

亀山 章	公益財団法人日本自然保護協会理事長、東京農工大学 名誉教授
加藤 和弘	放送大学 副学長
須田 真一	東京大学総合研究博物館 研究事業協力者
玉井 史隆	公募区民 (在住)
荒井 忠行	公募区民 (在勤)
竹内 和也	一般社団法人大丸有環境共生型まちづくり推進協会専務理事
吉瀬 ひとみ	三井住友海上火災保険株式会社 経営企画部 SX 推進チーム
伊藤 栄司	千代田区立お茶の水小学校長
青山 一彦	東京都環境局 自然環境部計画担当課長
川又 孝太郎	千代田区環境まちづくり部 ゼロカーボン推進技監

3. 欠席委員 (1 名)

森川 久	環境省自然環境局 皇居外苑管理事務所次長
------	----------------------

4. 事務局 (委託者 5 名 受託者 2 名)

委託者：千代田区環境政策課

山崎環境政策課長、今津企画調査係長、

桐野公害指導係長、羽鳥エネルギー対策係長、

安田ゼロカーボン推進担当係長

受託者：有限会社プラネット・コンサルティングネットワーク

高田大貴、松永張良

(議事次第)

1. 開会
2. 挨拶
3. 議題
 - (1) 千代田区の生物多様性に関する主な取組み
 - ①生物多様性推進プラン令和5年度事業報告
 - ②生物多様性に係る各種イベントの実施報告
 - ③令和6年度ちよだ生物多様性大賞
 - ④緑化に係る取組み
 - (2) 千代田区環境配慮行動の普及啓発キャンペーン
 - (3) その他
4. 閉会

(配布資料)

- ・ 令和6年度第2回次第
- ・ 第6期千代田区生物多様性推進会議委員名簿
- ・ (資料1) 生物多様性推進プラン令和5年度事業報告
- ・ (資料2) 生物多様性に関する各種イベントの実施報告
- ・ (資料3) 令和6年度ちよだ生物多様性大賞
- ・ (資料4) 緑化に係る取組み
- ・ (資料5) 千代田区環境配慮行動の普及啓発キャンペーン
- ・ (資料6) 千代田区の後援事業
- ・ (参考資料) 千代田区生きものさがし2024調査結果
- ・ (参考資料) ちよだ生物多様性大賞受賞者活動概要

(議事要旨)

1. 開会
 - ・ 本会議は区の方針に基づき、原則として公開する。
 - ・ 議事の内容は、事前に委員の方々に確認をとってから区のホームページに掲載する予定である。
 - ・ 各自配布の資料確認

2. 議事

(1) 千代田区の生物多様性に関する主な取組み

①生物多様性推進プラン令和5年度事業報告

<事務局>

別紙の「ちよだ生物多様性推進プラン（事業計画）」について、各行動計画及びそれに伴う項目、それに対する取組み・計画を説明した。

<亀山委員>

令和6年度の事業計画では、過年度の様に受け継がれているのか。

<事務局>

その通り。過年度の事業を踏襲しつつ、推進会議の意見を踏まえ、多少内容を変えているところもある。

<亀山委員>

本来であれば、昨年度の初めに過年度の実績報告を受け、新しい計画案の中でどのように発展させていくか、ものによっては実施しないという議論があるのである。

<事務局>

前年度の事業が完全に完了していないものがある為、難しいところもある。

<亀山委員>

実績を踏まえて、新しい案を練っていくものだと思うため、どのように過年度の実績の検討内容が受け継がれていくのか心配である。

<事務局>

前年度までの報告及びこれまでの計画の見直しを受けて推進プランを検討しているが、各所管はそれまでの計画で進んでいるため、令和5年度が終わってから報告を受けてすべてまとめたのが今回のタイミングだった。今年度は新しい推進プランを踏まえて行動計画を検討し、事業を行っている。

<亀山委員>

以上を踏まえて、何か意見があるか。

<加藤委員>

千代田区内のその他の課との調整がうまくいっていないと感じた。生物多様性に関して前面に出していけない状況があちこちで発生していると感じた。周辺地域に啓発活動を行うだけではなく役所内にも啓発していく必要があると思う。現場の事業では、生きものを観察しやすい整備や看板を設置するのは良いが、その後をどうするのかまで考えられると良いと感じた。設置するだけでなく、活用することを施策に含められると良い。

<亀山委員>

学校の屋上にビオトープを設置すると子どもたちの安全面に配慮するため、身近に親しむことができないとはどういうことなのか。ビオトープを設置したが有効活用されていないのはなぜなのか。このように評価されているのはなぜなのか、評価は小学校が行うのか。

<事務局>

評価に関しては所管課が行っている。問題として挙げられる例として記載している。

<加藤委員>

今の学校では屋上には先生が付いて行かないと入れない状況になっている。そのため、身近に親しむことができないと記載されていると思う。ただし、地上にあったとしても、先生の管理・監督がないところで子どもたちが事故を起こしてしまう心配があるため、学校側も頭を悩ませているところだと思う。

<事務局>

生きものを観察しやすい場所を提供し、興味をもってもらうとともに、子ども向けの自然環境イベントをしている際にこういった樹木かが分かるように活用したい。

<須田委員>

ビオトープの設置は検討されていて、一部活用もされているようだが、それを維持管理することが検討されていないと感じた。小学校の中でも、受け継がれていくことが難しい。公園などのビオトープを設置するにしても、維持管理するための検討も必要。江東区ではビオトープを地域の NPO が管理維持されていて、非常にいいモニタリングも行われている。千代田区もそのような管理方法を考えていかないと、設置するだけで無駄になってしまうのではないかと懸念している。学校や施設でも外部の管理団体との連携等の検討が必要だと感じた。千代田区のような、高密度市街地では一番ビオトープ設置の可能性のあるのは屋上である。ただ、

設置するだけでなく利活用及び維持管理できるような可能性の検討が必要だと感じた。

< 亀山委員 >

うまく運営できるような仕組みを考え、活用できるようになれば良いと感じた。

< 荒井委員 >

知見のある NPO などが区内の学校を巡回して維持管理していくような仕組みができるのではないかと感じた。

< 伊藤委員 >

今の時代、何かあればすぐ訴えられる。かなり気を使って子どもたちと接している。例えば、休み時間に屋上に 1 人常駐し、管理して子どもたちに教えてくれるといいが、何かあればその方の責任かどうかとも検討しないといけない。だが、学校側としてもビオトープを活用していきたい。管理してくれる人がいるのはありがたい。SNS で生物多様性を考えるコミュニティを作るのはどうか。自主的に活用できる場があれば興味がある方は多いと思う。

< 竹内委員 >

Biome のアプリを使えば地域の生きものについていつでも見られるようになっている。種別判別でもかなり精度があがってきているので活用できると思う。コミュニティを図れる基盤作りはできている。屋上のビオトープに関しては学校だけではなく、企業側としても屋上ビオトープ等の開放も検討していく必要があると感じた。

< 伊藤委員 >

アプリなのであれば児童の持っているタブレットにダウンロードすることができる。周知を広くすることでより活用ができると思う。

< 玉井委員 >

千代田区の各課では、生物多様性に対してのコミットメントをもって取り組んでいるのか。他の課の生物多様性に対して指標を設けてそれを達成できるような施策にする等、10 年も続けば優先順位が低くなるため工夫が必要だと思った。

< 須田委員 >

Biome を使った調査は手軽で有益だが、誤同定がある。普及啓発にはいいが、調査データとしてはまだ検討が必要である。調査データとして扱うには不十分で

あり、ダブルチェックする人物が非常に重要である。Biome で収集した調査データを区としてはどのように活用していくかを検討はされているのか。誤同定のまま公表されてそれがデータとして生きてしまうととても問題がある。

<事務局>

生きものに興味を持ってもらう手段としてはとても良いと思っている。モニタリング調査の結果としては気を付けないといけないと思っている。正式な生物調査では別途で調査を依頼している。場合によって分けることを考えている。

<亀山委員>

知見のある人物の同定なのか、Biome の同定なのかを明記するようにすることが大事だ。

②生物多様性に関する各種イベントの実施報告について

<事務局>

別紙の「生物多様性に関する各種イベントの実施報告について」の実施報告をした。

セミ羽化観察の方法などを紹介した動画を視聴した。

<竹内委員>

生きものさがしの生きもの発見ランキングの植物に外来種のハルジオンとムラサキカタバミが記載されているがどのような扱いになっているのか。

<事務局>

生きものであれば区に報告するようにしている。特に外来生物だから報告してはいけないとはしていない。

<竹内委員>

この表記だと外来種が多くあっていいねとなりそうだと懸念している。何か表記で分かるようにするのが良いと思う。

<亀山委員>

あまり外来種だから駄目だと子どもに教え込み過ぎると子どもたちが自然環境に対して嫌悪感を抱く可能性がある。

<須田委員>

春の生きものランキングが千代田区の現状だと思う。このことを踏まえてこの状況をどのように改善していくかを考えることが必要である。トップ 3 を示すときも外来種と在来種で分けて示すのが良いと思った。外来種が多いがその中で在来種も生きている、この状況をどう捉え、改善していくかということをみなさんに考えてもらうことでこれらのデータは生きてくると思う。

<玉井委員>

アプリでは、外来種はEランクとして表示される。小学生が学習できるような仕組みではある。生きものさがしでは、在来種と外来種で分けて分類されて記載されていると良いと思った。

<亀山委員>

次回からの生きものさがしでは分けて記載するように。

<玉井委員>

他の区も生きものさがしを行っていると思うが、他の区はどのような状況なのか分かるのか。連携などはしているのか。

<事務局>

連携していない。

<玉井委員>

他の区とも連携をしながらモニタリングを行っても良いと思った。

<伊藤委員>

セミ羽化観察の動画はどこに公開されるのか。

<事務局>

現在作成中で、完成次第区のホームページに公開予定だ。

<伊藤委員>

Biome などすぐにアクセスできる場所で見られるようにしたほうが良い。

<事務局>

Biome は区が管理していない為、公開は難しいが区の公式 LINE での周知を検討する。

③令和6年度ちよだ生物多様性大賞について

<事務局>

別紙の「令和6年度ちよだ生物多様性大賞」について説明した。

6件の応募があり、4件が入賞した。

入賞者の活動内容の概要と評価点について説明した。

<伊藤委員>

前回の会議より、夏休みの宿題を生きものに関するものを集めたが選考対象に該当するものはなかった。生物多様性に限ると難しい。「生きもの大賞」にすると広がると思うが、入賞したレベルの活動は子どもたちの発想では難しい。

<亀山委員>

選考は幅広く見ているので、選考対象に限らず提出してほしい。

<伊藤委員>

選考対象等の記載をゆるく融通が利くような文言にして欲しい。

<亀山委員>

選考対象となる活動の文言に文章を追加して、ゆるく分かりやすいようにすると良い。

<事務局>

生物多様性と聞くと難しく考えがちなので、名称なども変えるという意見もだったので検討が必要だと感じた。

<加藤委員>

低年齢層の方だけでなく、高校生や大学生などその上の年齢層の方々に向けても発信し活動を促す必要もあるので、切り分けが難しいと感じた。現在はどの方々からも同じ区分で大賞を選考しているが、区分を分けて入賞選考を考える必要があると感じた。入賞した作文を例として、絵画や写真などで千代田区の生物多様性の保全を訴えるという間口の広げ方も良いと感じた。

<事務局>

これらの意見を踏まえて来年度以降は変更も考えていく必要がある。

④緑化に係る取組みについて

<事務局>

別紙「緑化に係る取組み」について説明した。

< 亀山委員 >

緑化に係る取組みはすべてヒートアイランド対策に係ると感じたが、どうか。

< 事務局 >

緑化指導については地球温暖化対策として行っているが、助成制度がヒートアイランド対策助成制度として行っている。

< 須田委員 >

緑化として屋上緑化を行い、池を設置し水の中に水草などを植え付けることも緑化として含まれるか。

< 事務局 >

ビオトープ等の水辺も緑化に関係すれば含まれる。

< 須田委員 >

以前東京都の緑化指導では水辺が含まれていなかったもので、千代田区は含まれていることで安心した。

< 伊藤委員 >

学校やPTA団体も緑化助成制度も活用できるのか。

< 事務局 >

それらの団体も対象である。

< 伊藤委員 >

幼稚園などもそのような活動を行いたいと考えているので良かった。街路樹などの植え替えの活動も助成対象なのか。

< 事務局 >

既に緑化されている場所は助成対象ではない。また、移動できるようなプランターなどは対象にはならない。

< 事務局 >

対象になるプランターは100L以上のものである。

<伊藤委員>

植栽に対して助成されるのか。毎年助成されるのか。

<事務局>

設置に対して助成されるので、一回のみである。

<竹内委員>

1つ100L以上か、合計100Lなのか。

<事務局>

1つ100Lだ。簡単に動かせないことが条件だ。

<亀山委員>

その大きさであれば、野菜などでも良いということか。

<事務局>

野菜でも良い。ただし、夏の期間も緑があるようにする。

<青山委員>

緑化指導では、在来種の植栽について指導していると記載されているがどのように指導しているか。また、指導に対して業者の取組み姿勢が分かればお聞きしたい。助成制度の実績が少ないが、これについて理由があれば聞きたい。

<事務局>

緑化指導では、東京都の基準として指導を行っている。助成制度は緑化要綱にかかる部分の対象にならないためハードルが上がっていると考えている。敷地面積以上の緑化に対して助成がされるのでなかなか実績が増えないと考えている。

<事務局>

緑化指導は新築の建物については義務となっているため、助成の対象外となっている。それ以上に作る場合のみ、助成の対象となっている。既存の建物に関しては、なかなか手が上がらない状況である。

(2) 千代田区の環境配慮行動の普及啓発キャンペーン

<川又委員>

別紙「千代田区環境配慮行動の普及啓発キャンペーン」について説明した。

< 亀山委員 >

企業向け宣言は企業が行うのか。

< 川又委員 >

企業や大学等の事業者に、17 ある宣言から半分以上選んで宣言してもらおう。

< 亀山委員 >

画期的なことで良いと思った。

< 玉井委員 >

企業向け宣言として、企業に対してのインセンティブはどういうものになるのか。

< 川又委員 >

企業向けでは、省エネ補助金等助成制度に申込でき、ホームページに宣言した企業をリストにして掲載する、ロゴがすぐ使え、宣言書を発行する等がある。

< 玉井委員 >

とても良い取組みだ。誰でもできるものより、限定されている方がやりがいを感じられる。宣言を出すことによって企業が取り組んだことが分かりやすくなるようになると良いと思った。個人向けでもバッジやキーホルダーなどを用意して、宣言したことを外に発信できるようにすると良いと思った。

(3) その他

< 事務局 >

別紙「千代田区の後援事業」について説明した。

4. 閉会

今後のスケジュールとして、次回の推進会議は8月を予定している。

以上